

内定式、学生ら決意

県内企業 経営陣からエール

2025年卒業予定の大学生らの採用内定が解禁となった1日、県内の企業で内定式があった。日銀の政策変更で学生からの関心が高い金融機関は地銀を中心に採用に積極的で、内定式では経営陣や先輩社員から期待の言葉が贈られた。

十六フィナンシャルグループ(FG)は岐阜市内で開き、150人が出席。池田直樹社長は中核子会社の十六銀行が日本最古のナンバードバンクであることに触れ、「今流に言うところ一番サステナブル(持続可能性)な銀行だ。チャレンジングな会社でもあるので安心して入社してほしい」と語りかけた。現場で活躍する若手社員2人が日頃の業務内容やキャリアについて紹介し、来春から一緒に働けることに期待を寄せた。名古屋大学院2年の坂本乃彩さん「岐阜市出身」は「正直不安もあったが、皆さんに支えてもらって頑張っていけそうです」と話した。

大垣共立銀行グループは名古屋市内で開き、160人を内定した。五藤義徳取締役常務執行役員が「今年は日経平均株価が史上最高値を更新し、日銀はマイナス金利を解除した。日本経済の大きな転換点と共に社会に出る皆さんは、社会の変化の先駆けになる」となどと激励した。

またグループ入社1年目の社員たちによるメッセージビデオを上映し、内定者を歓迎した。代表で内定通知書を受け取った名古屋大4年の本田遥さん(23)「愛知県津島市」は「法人営業を担当して愛着がある東海地域の企業に貢献したい」と決意を語った。

岐阜信用金庫は岐阜市内で開催し、大卒89人が出席した。好岡政宏理事長が一人一人に内定証を手渡した後、「体力と考える力を付け、コミュニケーション力を磨いてほしい」とあいさつ。広島大4年の松原新二さん(22)「岐阜市出身」は「地元岐阜県の企業に貢献したい」と話した。

大垣西濃信用金庫は大垣市内で開き、内定者27人が出席。小川章理事長が訓示して内定証を渡した。内定者は自己紹介し、地域経済への貢献を誓った。



十六フィナンシャルグループの内定式で、あいさつする池田直樹社長(中央)＝岐阜市神田町、同グループ本社



大垣共立銀行グループの内定式で、内定通知書を受け取る本田遥さん(手前右)＝名古屋市中村区名駅、名古屋マリオットアソシアホテル